

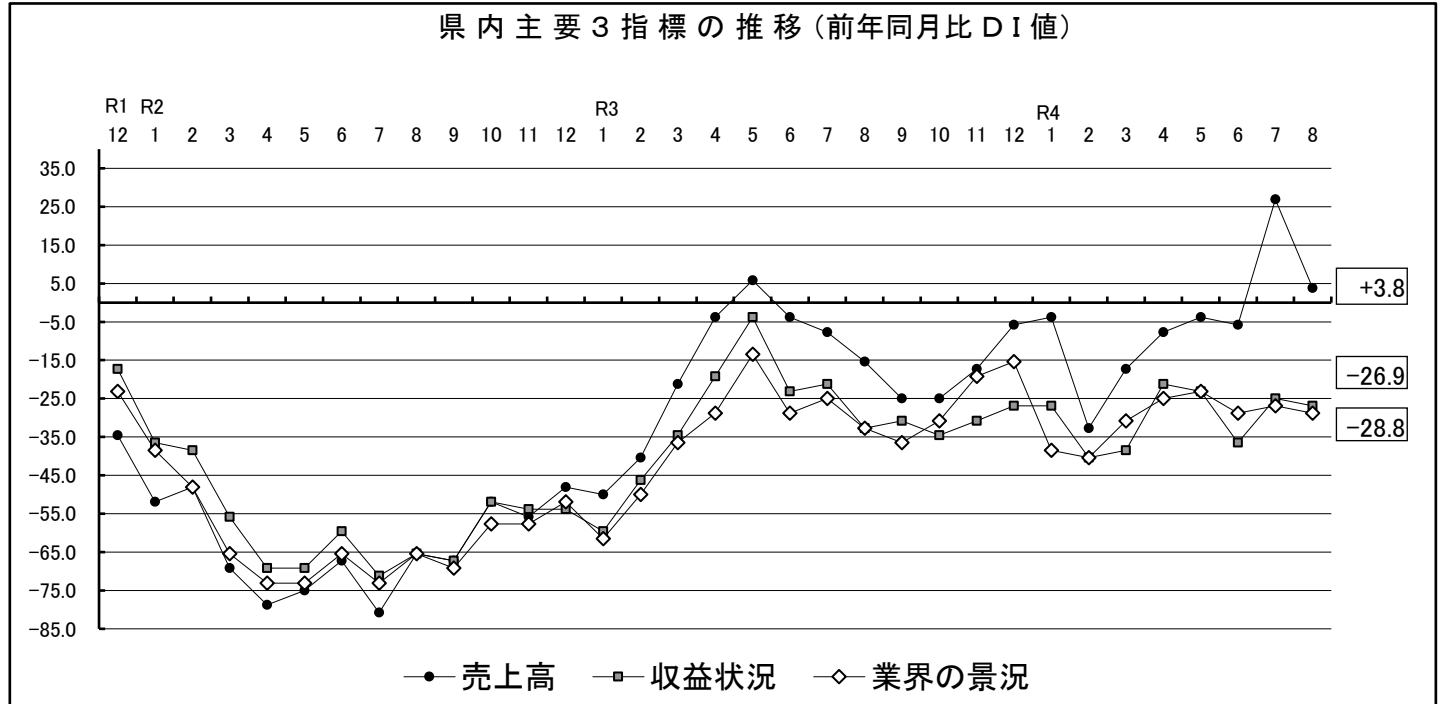
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和4年8月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は全て下降した。
- 製造業で「一般機器」「鉄鋼・金属」、非製造業で「小売業(飲食業含む)」が依然として厳しい。
- 原材料・燃料費等の高騰、人手不足などの問題が長期化しており、引き続き予断を許さない状況である。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	+3.8	-23.1	-4.1	+1.2
収益状況	-26.9	-1.9	-32.0	+3.3
業界の景況	-28.8	-1.9	-27.6	+2.5

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より23.1ポイント下降し、+3.8ポイントとなった。全国においては、前月より1.2ポイント上昇し、-4.1ポイントとなった。

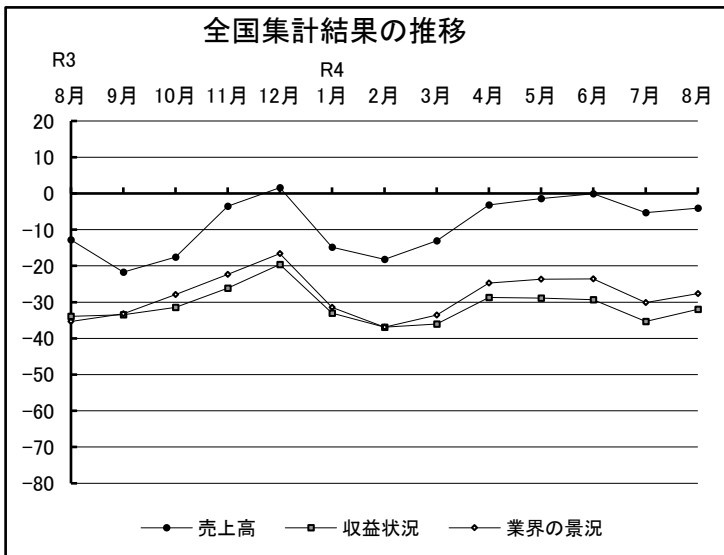
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より1.9ポイント下降し、-26.9ポイントとなった。全国においては、前月より3.3ポイント上昇し、-32.0ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より1.9ポイント下降し、-28.8ポイントとなった。全国においては、前月より2.5ポイント上昇し、-27.6ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

8月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中7指標が下降した。主要3指標は「売上高」は23.1ポイント下降、「収益状況」は1.9ポイント下降、「業界の景況」が1.9ポイント下降となった。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「一般機器」・「鉄鋼・金属」が下降し厳しい。特に、人手不足問題や部品不足・コロナ関連での休業が相次ぎ、生産対応に追われている状況が見受けられ、引き続き厳しい経営状態が続いている。「木材・木製品」においては、売上は回復傾向であるが材料価格の高騰が長期化していることに加え人手不足の問題もあり、収益増加の対応が困難になっている。非製造業においては、「小売業(飲食業含む)」で仕入の価格高騰に加え諸物価も値上がりしているため、依然として厳しいマイナス状態が続いている。

売上が前年同月と比較し、回復傾向にあるとの報告が一部業界から寄せられているが、全体的に見ると原材料・燃料費等高値の状態が続き経費が増加したとの報告や人手不足の問題、部品不足による休業など問題が山積みであり、引き続き予断を許さない状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	75.0	25.0	50.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	0.0	0.0
繊維・同製品	75.0	0.0	25.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0	0.0
木材・木製品	75.0	-25.0	50.0	0.0	0.0	-25.0	25.0	0.0	-75.0
印刷	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	-75.0	0.0	0.0	-25.0	-50.0	-50.0	-50.0	-25.0	-50.0
一般機器	0.0	-25.0	25.0	-25.0	-50.0	-50.0	-25.0	0.0	-50.0
製造業	28.0	-4.0	36.0	-12.0	-20.0	-24.0	-12.0	-8.0	-28.0
卸売業	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0		0.0	33.3
小売業	-28.6	-14.3	42.9	-28.6	-71.4	-71.4		14.3	-71.4
サービス業	0.0		33.3	-16.7	-16.7	-16.7		16.7	0.0
建設業	-20.0		20.0	0.0	-40.0	-20.0		0.0	-20.0
運輸業	-50.0		0.0	0.0	-50.0	0.0		0.0	-75.0
その他	-50.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-18.5	-10.0	25.9	-7.4	-33.3	-25.9		7.4	-29.6
全体	3.8	-5.7	30.8	-9.6	-26.9	-25.0	-12.0	0.0	-28.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	3年			4年			前月比
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
売上高	-15.4	-25.0	-25.0	-17.3	-5.8	-3.8	-23.1
在庫数量	-17.1	-25.7	-8.6	-8.6	-20.0	-5.7	5.7
販売価格	0.0	-3.8	3.8	5.8	11.5	9.6	-1.9
取引条件	-13.5	-17.3	-11.5	-17.3	-9.6	-5.8	0.0
収益状況	-32.7	-30.8	-34.6	-30.8	-26.9	-26.9	-1.9
資金繰り	-23.1	-23.1	-21.2	-15.4	-13.5	-15.4	-11.5
設備操業度	0.0	0.0	-8.0	-16.0	-4.0	-8.0	-16.0
雇用人員	-7.7	-5.8	-15.4	-9.6	-7.7	-11.5	3.8
業界の景況	-32.7	-36.5	-30.8	-19.2	-15.4	-38.5	-1.9

特記事項

情報連絡員報告（令和4年8月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	全体的に売上の増加はあるが、今後最低賃金の見直しなど原材料の高騰も含め不安要素がある。
	酒類製造業	前年同月と比べると3～5%の売上増ではあるが、コロナ前と比べるとまだ60%程度である。感染者数の動向が不安であるが米の作況や原材料等の値上げがそれ以上に不安である。
繊維工業	染色繊維業	行動等の緩和、催事が増えてきたことにより捺染・プリント部内で改善が見られる。原材料、燃料費等の値上げによる経費増。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	今月も売上自体は比較的堅調に推移。数字上はコロナ前の水準になっている。類似レースなどの在庫不足による代用扱いでの引き合いが多い傾向である。様々な加工所の話を知っていると、仕事量も徐々に増えてきて嬉しいのだが、原料の値上げが厳しく、どの企業もやりくりが厳しい状況である。
木材・木製品	家具・建具製造業	売上の回復傾向が鮮明になっているものの、原材料価格の高騰により収益確保が進まない。人材確保も思うように進まず、売上増加への対応が困難になっている。
	建具製造業	長期に亘る大型案件が先月終了し、たまたま売上が大きく上昇したが、その他通常取引は低調なままである。
印刷	印刷業	季節的に需要が落ちる時期だが、昨年に比べると需要が増えてきている。原材料の価格上昇分の価格転嫁を進めているが厳しい現状が続いている。
窯業・土石製品	陶磁器・同関連製品製造業	お盆を境に来客数が増加し、小売店の売上も増加していることと思われる。そのため、窯元の製造数が増え材料の販売も良くなってきている。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	各社、コロナウイルス陽性者や濃厚接触者で社員の休みが相次ぎ、生産対応に追われている状況が多く見受けられる。また、社内の感染防止対策も正解な対処が無い中、不安を抱えての生活から就業に支障が出ているのも実情である。自動車関連においては、コロナ関連休業に伴い、部品不足による休業もあり夏期休業に加え、更に稼働停止するほど厳しい月となった。依然として、コロナ対応、部品不足の状況が続いている。
一般機器	一般機械器具製造業	相変わらず企業間格差が大きい。コロナ感染の波がこの地域にも広がり、時期によっては従業員の1割強が休まざるを得ない状況が続き、操業に影響をきたしている。
	一般機械器具製造業	前年同月と比較し、売上高が増加傾向にあるが販売価格は不変という状況であった。仕入資材の状況は引き続き高値が続いている。人手不足の企業が出てきており、新型コロナウイルスの感染状況やロシアによるウクライナ侵攻による化石燃料の上昇や物価上昇といった懸念材料が多々あるが、政府の経済対策を注視し今後の動行に対応していきたい。
	一般機械器具製造業	一部の公共事業関係が忙しくしているようだが、他の産業は芳しくない。中国の都市封鎖・コロナの影響・半導体不足等問題山積み状態なので明るさが見えない。
卸売業	各種商品卸売業	一部業種を除き全体として売上高、業況等は前年同期に比べ好転となっている。各社とも仕入単価上昇により販売価格も上昇となっている。

小売業	食肉小売業	輸入牛豚肉の仕入価格、国産食肉も値上がりしている上に諸物価が全て高く売れない。消費者も買い控えが起きている。
	各種商品小売業	前年同月よりは売上は増加傾向であったが、連日コロナ感染者が最多を更新しているような状況であり、非常に厳しい売上であった。特に、夏休みであるにも関わらず児童の感染者が多かったことが大きな痛手である。
	花・植木小売業	先月同様、花材の仕入れに苦勞した組合員も多い。お盆前の6月～7月の仕入れ相場が安値だったこと、天候の影響、輸入花材の入荷減などが理由で8月の相場が一気に高騰した。県内だけではなく、各地でお盆商戦の主力花材の菊やスプレー菊の品薄、価格高騰。それに伴い売値上げした組合員も（全国的に）多かった。納入先との関係で値上げをできない組合員の利幅の確保困難になるほどの価格高騰であった。営業利益は全体的には良くなかった。
サービス業	自動車整備業	総売上高は、減少しているものの車体修理部門の売上は増加。移動制限の緩和なども増加の原因として考えられる。
	旅館・ホテル	いちご一会とちぎ国体リハーサルを兼ねたスポーツコンベンションが数多く開催され、宿泊者数も上昇してきた。学会等のコンベンションはハイブリッド開催が主になるので、人数は期待できない。（宴会）新型コロナウイルスで100%ダウン。（飲食）第7波の感染拡大により飲食店の利用を控える傾向が非常に強い状況である。
	給食センター	食材費の値上げのみならず、電気・ガス・水道の価格上昇が尋常ではない。特に電気・ガスについては対前年比で1.5倍の上昇となっており、金額でいうと前年とほぼ同程度の使用量でも、1か月300万円程上がっている。これに加えて10月からの最低賃金の上昇と、社会保険加入範囲の拡大も合わさり、1か月で100万円以上の人件費の上昇となる。
建設業	総合工事業	資材の高騰が続いており、発注者（国・県）においては、鋼材、燃料油、その他資材の単品スライドを行う通知がなされている。公共工事の発注が進んできている状況ではあるが、さらなる工事の発注を望んでいるところである。
	職別工事業	各組合員ともに前年並みではあるものの、材料費の値上げなどにより収益面においては前年を下回っている。
運輸業	貨物自動車運送業	輸送量がやや増えてきたが運賃水準の改善にも関わらず、燃料高騰分が転嫁されず、運賃原価が増加したことにより厳しい状況。
	貨物軽自動車運送業	7月下旬からの勢いを、大型連休前後も続いてくれたおかげもあり順調であった。鉄鋼・食品・建築資材・大型連休をつかった引越しなど、様々な業種から依頼がありこの流れを維持し続けたい。
	一般乗用旅客自動車運送業	第7波が顕著になってきてからは、日中はコロナワクチンを3～4回接種終了の人達が多くなったためか、人流は多くなっている。一方、夜間については、以前のコロナ禍状態に戻ってしまった。